



神鋼鋼線

KOBELCO WIRE COMPANY, LTD.

70TH ANNIVERSARY

中期経営計画「Next Innovation 2026」 2025年3月期第2四半期決算説明会

2024年11月21日
神鋼鋼線工業株式会社
証券コード：5660



Index



- **事業概要**
- 経営理念・サステナビリティ経営
- 新中期経営計画「Next Innovation 2026」
- 2025年3月期第2四半期決算

特殊鋼線関連事業、鋼索関連事業、エンジニアリング関連事業の3つの主要事業セグメントにて事業運営。

神鋼鋼線

3つの主要事業セグメント



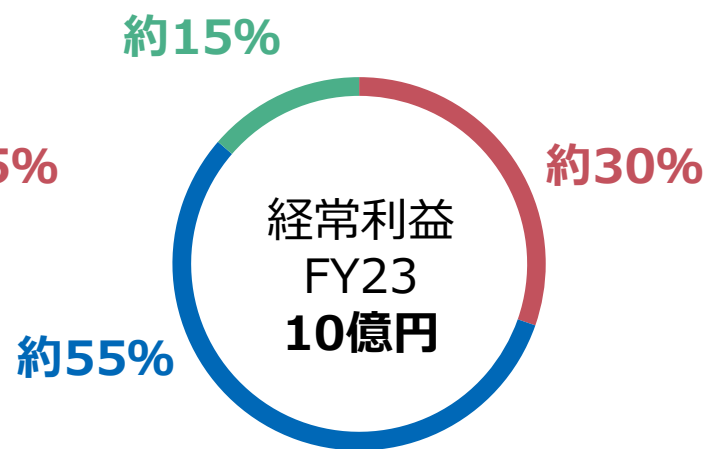
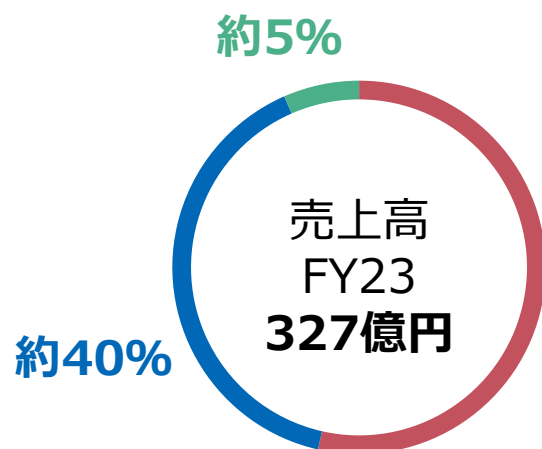
特殊鋼線関連事業



鋼索関連事業



エンジニアリング関連事業





道路・橋梁に用いられるプレストレストコンクリート用鋼材や、自動車・産業機械等に利用されるばね用の特殊鋼線を製造・販売。

公共事業 (国内)



道路・橋梁の補強材であるPC鋼材を供給。さらに、被覆等の加工技術の付加により耐久性や現場での生産性を向上。

<主な用途>

- 高速道路等床版
- PC橋梁
- アンカー等

自動車 (国内・海外)



自動車の軽量化(燃費向上)を実現する高強度かつ加工しやすいOT線を供給。

<主な用途>

- エンジン・クラッチ用ばね
- 内装部品用ばね等

建設関連 (国内)



高い耐久性や、大スパン構造が要求される建築構造物用に、様々なPC鋼材を供給。

<主な用途>

- マンション
- 倉庫・学校
- コンクリート二次製品等

その他



多様な分野へ加工難度の高い特殊鋼・特殊合金線を供給。

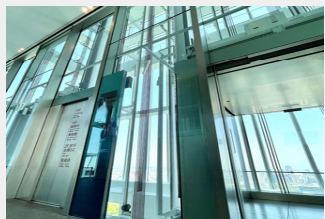
<主な用途>

- 化学プラント用ボルト(チタン線)
- ディスペンサーボトル用ばね(ステンレス鋼線)
- プリンター用ばね(ニッケルめっき線)等



超高層用エレベーターロープなどの高機能品から、幅広い分野で利用される一般品まで、多種多様なワイヤロープを製造・販売。

エレベータ (国内・海外)



常時荷重がかかる環境下でも安定した稼働ができる、高耐久性と柔軟性を兼ね備えたロープを供給。

<主な用途>

- 高層建築用
エレベータ
実績:Burj Khalifa
東京スカイツリー等

クレーン (国内・海外)



高い技術力により、使用環境や用途に合わせた様々な特性のロープを供給(非自転性・柔軟性・耐摩耗性等)。

<主な用途>

- ジブクレーン
-クローラークレーン
-タワークレーン等

土木 (国内)



土木分野で広く利用される耐衝撃性や加工性に優れた高機能ロープを供給。

<主な用途>

- 起重機
-杭打機
-ガードケーブル等

その他



ステンレスを利用した高耐食性ロープ等、特殊ロープを供給。

<主な用途>

- 水門
-水処理施設等



橋梁用ケーブルの設計から製造、点検、メンテナンスまで総合サービスを提供するほか、耐震・防災関連製品の新製品開発・製造・販売を実施。

橋梁 (国内)



耐久性と空力特性等の優れたケーブル加工技術により、日本各地の橋梁で採用。

<主な用途>

- 吊橋・斜張橋・アーチ橋
- 実績:気仙沼湾横断橋
安仁屋橋等

メンテナンス (国内)



ケーブル製造のノウハウを生かし、質の高い橋梁ケーブルの点検・メンテナンスサービスを提供。

<主な用途>

- 吊橋・斜張橋のケーブルの点検・補修・補強等

耐震 (国内)



独自製品の耐震CB(ケーブルブレース)等、耐震補強材の開発・供給。

※耐震CBは大掛かりな足場不要・重機不要・火器不使用等、非常に施工性が高い

<主な用途>

- S造の工場・倉庫等の壁・屋根の耐震補強

防災 (国内)



道路・橋梁や洋上構造物等に利用される防災製品の開発・供給。

<主な用途>

- 道路の標識・照明・遮音壁・吸音板・トンネル内装板等の落下対策
- 落橋(橋桁の落下)防止
- GPS波浪計等の浮体式構造物の係留等



Index



- 事業概要
- **経営理念・サステナビリティ経営**
- 新中期経営計画「Next Innovation 2026」
- 2025年3月期第2四半期決算

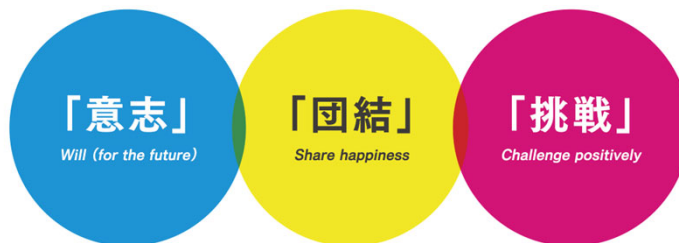
1. 神鋼鋼線グループが目指す姿(理念体系)

当社グループの理念体系は、社会の一員として果たすべき役割を示した「神鋼鋼線ミッション」と、すべての従業員・役員で共有する価値観と行動指針を示した「神鋼鋼線クレド」によって構成。

神鋼鋼線ミッション・神鋼鋼線クレド



社会が前に進むために、
「なくてはならない価値」を
提供し続ける



「意志」

Will (for the future)

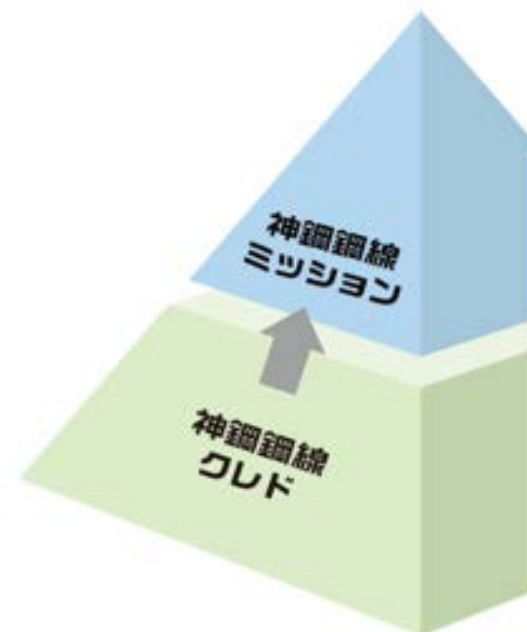
「団結」

Share happiness

「挑戦」

Challenge positively

お客様と社会に対して誠実に向き合い、次の世代へ、つないでいく



2.サステナビリティ経営の実践

「神鋼鋼線ミッション」の達成に向け、サステナビリティ経営の実践に注力する。社会課題解決を進め、ステークホルダーへの価値提供を継続することで、企業価値を向上させる。



サステナビリティ経営におけるマテリアリティを設定。
事業の目的として3テーマ、事業継続の手段として2テーマを選定。

5つのマテリアリティ(重要テーマ)



5 materialities

今、取り組むべき重要テーマ

サステナビリティ経営
推進の基盤

【事業の目的】
Output / Outcome
神鋼鋼線ミッションの達成



【事業継続の手段】
Transformation
価値創造の源泉・資本の強化



Governance
ガバナンスの強化

安全 / コーポレート・ガバナンス
(コンプライアンス / 人権 / CSR調達など)

5 materialities

今、取り組むべき重要テーマ

Output/Outcome 「神鋼鋼線ミッションの達成」

社会が前に進むために、「なくてはならない価値」を提供し続ける。



カーボンニュートラルに貢献し、
持続可能な地球環境を次の世代へ。

技術総括・DX推進部管掌役員 担当

KOBELCOグループではグリーン社会への貢献を掲げ、「生産プロセスにおけるCO2削減」を行うことに加え、独自の「技術・製品・サービスによるCO2排出削減」に貢献しており、これら二つの側面で2030年目標を設定しています。当社もKOBELCOグループの一員として、業界の先頭に立ってカーボンニュートラルの実現に挑戦します。



技術とアイデアの力で、
人々の安全・安心な暮らしを守り続ける。

エンジニアリング事業部管掌役員 担当

日本は自然災害が多く、昨今は気候変動の影響を受けて激甚化・頻発化する傾向にある中、災害に強い社会をつくる「防災・減災」の重要度が増しています。老朽化したインフラ設備のメンテナンスや更新ニーズも高まる中、当社固有の技術を磨き、より付加価値の高い新製品・新素材の開発に挑戦することで人々の安全・安心な暮らしを守り続けます。



高品質でお客様にご満足いただき、
社会から信頼されるブランドであり続ける。

技術総括・DX推進部管掌役員 担当


お客様視点に立ち、常に高品質でお客様にご満足いただくことは、人々の命を守るインフラ設備に使われる鋼線・鋼索製品をお届けするものとしての使命です。常に高いレベルでの品質マネジメントを実現し、決して妥協することなく改善を続けることでお客様にご満足いただくとともに、より多くの皆様から広く信頼される「神鋼鋼線ブランド」を作り上げます。

5 materialities

今、取り組むべき重要テーマ

Transformation 「価値創造の源泉・資本の強化」

多様な人材の力を最大限に引き出し、デジタルを活用して新たな価値を創出する。



人的資本
の拡充・
高度化

**多様な人材が活躍できる、
安全で働きがいにあふれる職場を創造する。**

総務本部管掌役員 担当

当社の事業分野とそれに必要な技術領域においては独自の専門性が要求されるため、安定的な人材の確保と技術の継承は大きな課題です。少子高齢化による労働人口減少が懸念される中、多様な「価値創造人材」から選ばれ続け、一人ひとりの個性をイノベーションにつなげていく「安全で働きがいにあふれる職場づくり」を進め、価値創造の源泉である人的資本の拡充・強化を図ります。



DX
(デジタル変革)
の推進

**事業のデジタル化とプロセス変革を進め、
生産性と提供価値を劇的に向上させる。**

技術総括・DX推進部管掌役員 担当

ICT・AI分野における技術の進化は目覚ましく、これまでのワークフローやプロセスを一変させようとしています。当社はDXをサステナビリティ経営推進のドライバーと捉え、製造現場およびオフィス業務のデジタル化を進め、効率的な生産活動を実現していきます。そして、多様な人材・技術をもとに新たな価値を創造し、ステークホルダーの皆様とともに社会課題の解決を目指します。

4-1. 神鋼鋼線グループのサステナビリティ貢献製品一覧

カーボンニュートラルへの挑戦として、土木・建築・エネルギー・自動車分野において多くのCO2排出削減貢献製品を提供しており、グリーン社会へ貢献しています。



土木

 <p>長寿命水門用ワイヤロープ</p>	 <p>長寿命クレーン用ワイヤロープ</p>	 <p>橋梁補強用RE-SETケーブル</p>
 <p>橋梁メンテナンス</p>	 <p>小型定着具</p>	 <p>工事用玉掛用高強度ロープ</p>

建築

エネルギー

自動車

 <p>エレベーター用低含有グリースロープ</p>	 <p>耐震ケーブルブレース</p>	 <p>エネルギータンク用PC鋼より線</p>	 <p>自然エネルギー発電設備用PC鋼より線</p>	 <p>エンジン・クラッチ部品 超ハイテンオイルテンパー線</p>
--	---	---	---	--

4-2. サステナビリティ貢献製品

防災・減災と強靱化への貢献として、防災・減災とインフラの老朽化対策・長寿命化分野において多くの製品を提供しており、人々の安全・安心な暮らしを守り続けます。



防災・減災



防災・減災

インフラの老朽化対策・長寿命化





Index

- 事業概要
- 経営理念・サステナビリティ経営
- **新中期経営計画「Next Innovation 2026」**
- 2025年3月期第2四半期決算

環境変化に適応し、持続的に成長できる企業基盤の構築

サステナビリティ経営の実践

社会課題の解決に向けて
5つのマテリアリティに注力し、
社会貢献×事業成長を両立



安定収益 ~ROIC 5%以上~

ROIC 5%以上を確保し、
持続的に成長する
安定収益基盤を確立



2.2026年度目標

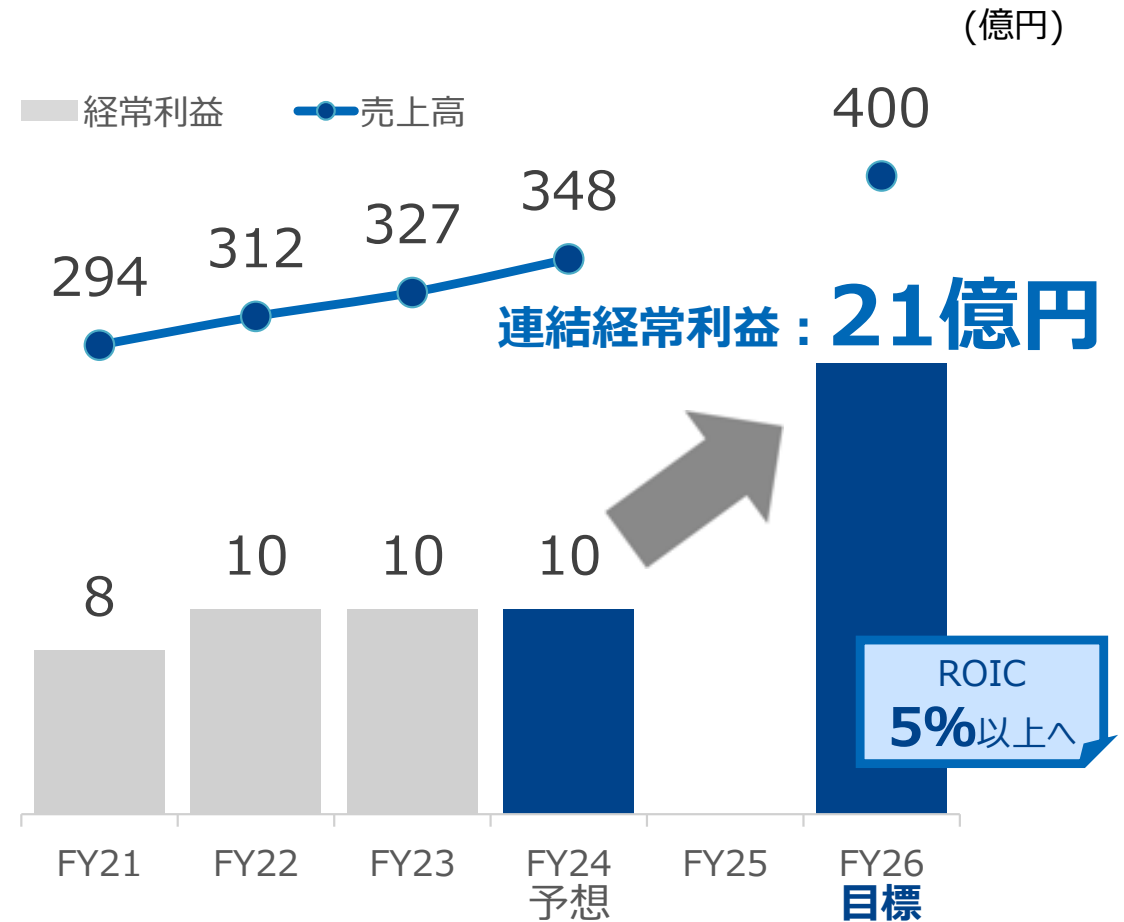
新中期経営計画では新たにROICを経営指標に取り入れる。
収益力を高めるとともに、投下資本のスリム化にも注力。

ROIC-----
5%以上

経常利益-----
21億円

D/Eレシオ-----
0.5倍以下

配当性向-----
30~40%程度



【ROICを高めるための活動】

- ☑ 社会課題解決に貢献する新事業・新分野・新製品への挑戦
- ☑ 原材料だけでなく人件費等諸コストも含めた価格転嫁
- ☑ 投下資本のスリム化

公共事業や自動車など主要分野の市場縮小に備え、成長分野の事業拡大および新エネルギー分野等の新規開拓にも注力。

特殊鋼線	公共事業	➡	国内の新設橋梁は減少し、補修・補強が増加。それに伴いPC鋼材の使用量は減少。
	自動車	➡	長期的には新エネルギー車(EV等)への置き換えにより、ガソリン車の需要は減少。(中期的には横ばい)
	建設関連	➡	Eコマース拡大や物流問題への対策による物流施設の建設が増加。
鋼索	エレベータ	➡	ハイライズエレベータ用ロープの需要が増加。
	クレーン	➡	物流問題による船便増加でコンテナクレーン稼働は増加。労働力不足等による長寿命製品需要が発生。
	土木	➡	労働力不足等により労務負担軽減や作業効率を重視した高付加価値製品の需要が増加。汎用品を中心とした海外品の流入は脅威。
エンジニアリング	橋梁	➡	2030年までは、大型斜張橋案件が多数あり。主な案件:京浜運河橋・大阪湾岸西伸部(新港・灘浜) 等
	メンテナンス	➡	建設から50年を経過する既存ケーブル橋が多数あり、メンテナンス需要は中長期的に発生。
	耐震・防災	➡	自然災害への備えとして、様々な建築物の耐震補強需要が中長期的に発生。

4.事業構成の変化

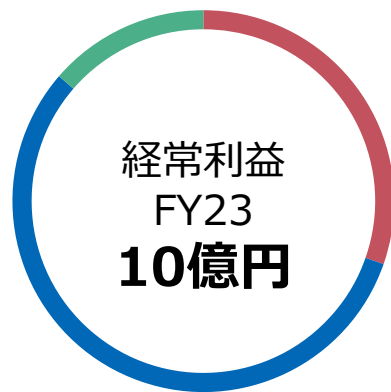
コスト環境影響を大きく受けている特殊鋼線の収益改善に加えて、エンジニアリングを中心とした成長分野での収益拡大を実現することで、全主要事業セグメントでの増益を計画。

FY23(実績)

FY26(目標)

エンジニアリング
約15%

特殊鋼線
約30%

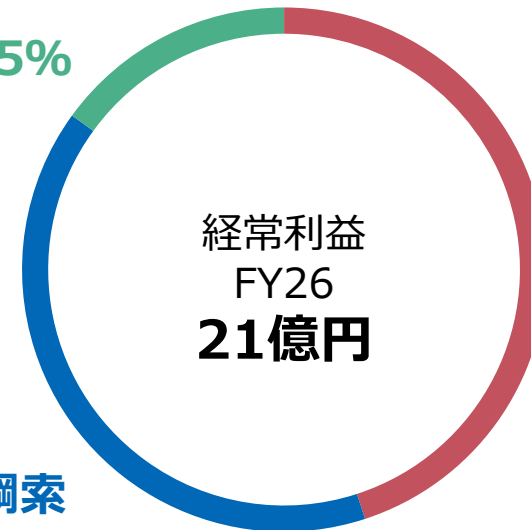


経常利益
FY23
10億円

鋼索
約55%

エンジニアリング
約15%

特殊鋼線
約45%



経常利益
FY26
21億円

鋼索
約40%



5.サステナビリティ分野の売上成長

当社全体の売上成長の4割強を占めるサステナビリティ分野へ
今後も経営資源を積極投入し、防災・減災と強靱化への貢献製品
およびCO2排出削減貢献製品の販売拡大を目指す。

サステナビリティ分野の売上成長(FY23→FY26)



約**1.6倍**

サステナ関連売上



約**1.7倍**

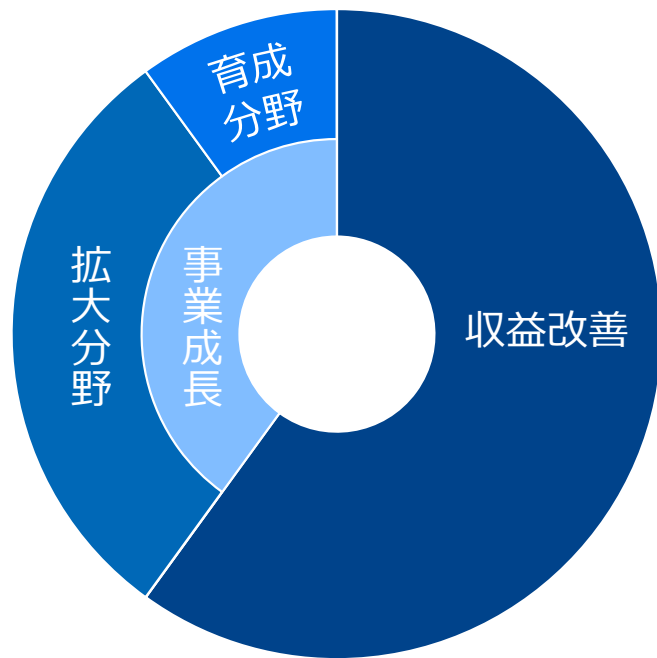
CO2排出削減貢献製品売上



約**1.5倍**

防災・減災と強靱化貢献製品売上

価格転嫁等による早急な収益改善が最重要課題。
市場ニーズにマッチした製品提供強化と、中長期的な成長を見越した
新事業・新分野育成にも注力。



価格転嫁や生産性向上による収益改善

- 原材料だけでなく人件費等諸コストも含めた価格転嫁
- 生産工程集約等による生産性向上およびロスコスト低減

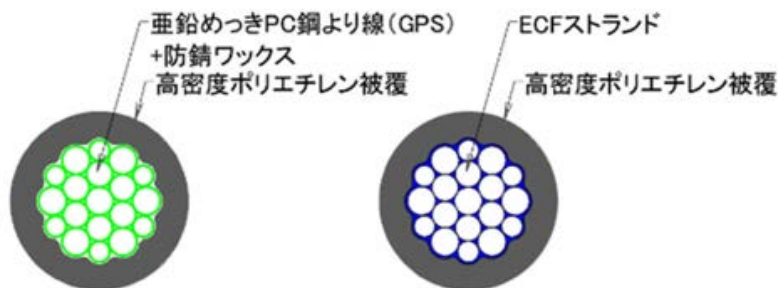
市場ニーズにマッチした製品提供の強化

- 公共事業分野
補修・補強向けメンテナンスメニュー拡充及び独自製品採用拡大
- 自動車分野
弁ばねやクラッチ用 高品質OT線の更なる品質力向上
自動車内装部品用途での採用拡大
- 建設分野
労働力不足等のニーズに対応した製品・技術の開発および展開

新エネルギー等、新事業や新分野の開拓と育成

- 新エネルギー等、新分野の市場開拓
- カーボンニュートラル化に貢献する製品の開発および展開
- 新事業の市場開拓と技術・設備導入

橋梁補強用外ケーブル RE-SETケーブルシステム



- 高耐久・施工性の優れた外ケーブル補強工法
- 従来品に比べて高い疲労特性を有し、グリーン社会へも貢献

製品特性-----

- 防食鋼材を高密度ポリエチレンで被覆し、定着具および付属金具に複合被膜処理を施すことで高い耐食性と防食性を有する
- 2段式アンカープレートを採用により、定着部コンクリートのコンパクト化を実現
- 小さな施工空間でも緊張作業および張力調整が可能
- リングナット方式定着具採用により、荷重調整・再緊張・ディテンション作業が容易

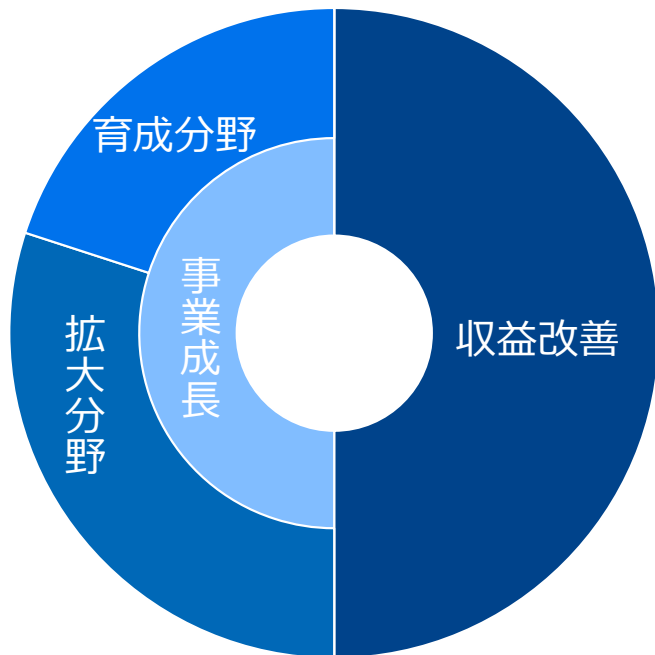
主な用途-----

コンクリート橋、鋼橋向け外ケーブル補強用

主な使用実績-----

NEXCO高速道路の橋梁補強等の工事

価格転嫁と生産管理の見直しにより安定収益基盤を構築。
高付加価値製品やサステナビリティ貢献製品等の販売拡大にも注力。



価格転嫁や生産管理見直しによる安定収益基盤の構築

- 原材料だけでなく人件費等諸コストも含めた価格転嫁
- 生産管理の見直しによる短納期化および在庫量削減
- システム化、業務改善等による省力・省人化

高付加価値製品と輸出販売拡大

- 高品質が求められる高層ビルエレベータ用として採用実績が多数あるオメガフィルター(耐久性・柔軟性に優れた専用ロープ)等高付加価値独自製品の販売拡大
- 港湾クレーン・中国向けEVメンテナンス製品等、輸出品の拡大

サステナビリティ貢献製品の開発と市場開拓

- 新エネルギー分野向け等、サステナビリティ貢献製品の開発および展開
- 長寿命・メンテナンスフリー等、労働力不足問題に貢献する製品の販売拡大

長寿命クレーン用ワイヤロープ オメガソリッド



- 長寿命化による交換サイクル延長を実現しグリーン社会へ貢献
- 今後の労働力不足にも対応した製品

製品特性-----

- 寿命が現行品の約2倍(10%断線)
- 疲労性能向上のため合成樹脂心を採用し、ロープ内部の金属間接触を最大限低減
- IWRC構成を見直す事で、IWRCとストランドの接触状態を改善
- ストランド数の最適化を図り、ロープとシーブの接触面圧を低減

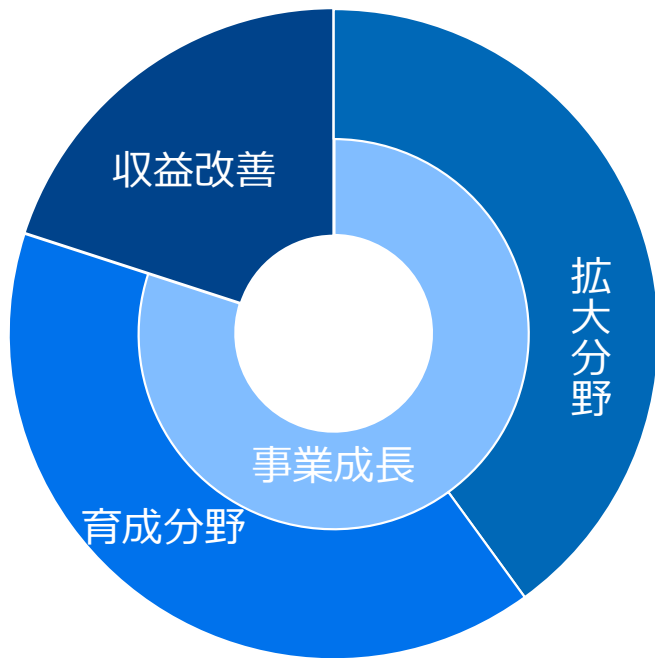
主な用途-----

コンテナクレーン用ワイヤロープ

主な使用実績-----

各港湾のコンテナクレーン
(東京港、名古屋港、大阪港、神戸港、富山港、博多港等)

中長期的な成長のために供給体制を確立。サステナビリティに貢献する独自製品・メニュー拡充や価格転嫁による収益改善にも注力。



大型新設橋梁案件の供給体制確立

- 中長期的な継続が計画されている大型橋梁案件に向け、設備投資・人員増強等、供給体制を構築

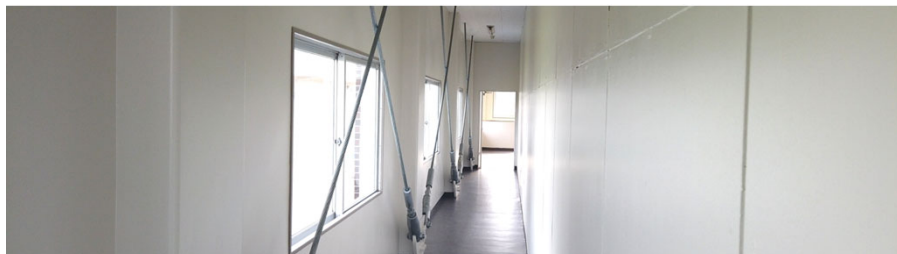
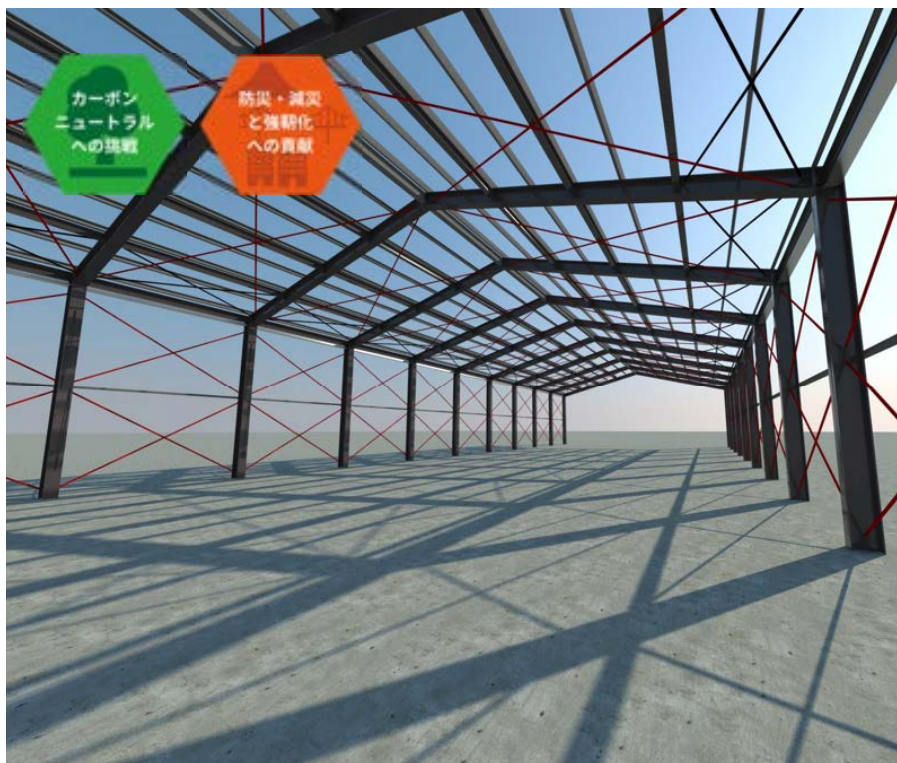
サステナビリティ貢献製品・サービスの拡大

- 独自製品である耐震ケーブルブレースの営業手法拡充および供給体制の整備による販売拡大
- 補強製品提供による木造重要文化財建築物保護への貢献
- 中長期的な需要発生を見込む橋梁ケーブルメンテナンスの点検メニュー拡充および社内体制強化
- 洋上風力発電向けの新たな係留索等、新エネルギー分野の市場開拓および製品開発

価格転嫁による収益改善

- 原材料だけでなく人件費等諸コストも含めた価格転嫁

壁・屋根の耐震補強 耐震ケーブルブレース



- 高強度のPC鋼より線を用いた強さ・軽さ・柔らかさを兼ね備えた耐震補強材
- 溶接不要なボルトで連結でき、CO2排出削減にも貢献

製品特性

- 一般的なブレース材よりも約5倍強く、約1/5の重さ且つ曲げられるため、短い施工期間で簡単に取り付け可能
- 少ない作業員、最小足場での施工が可能で省力化に貢献
- 端末金具はピン1本で取付可能で、溶接不要なボルトで連結する方式を標準化し、CO2排出削減にも貢献

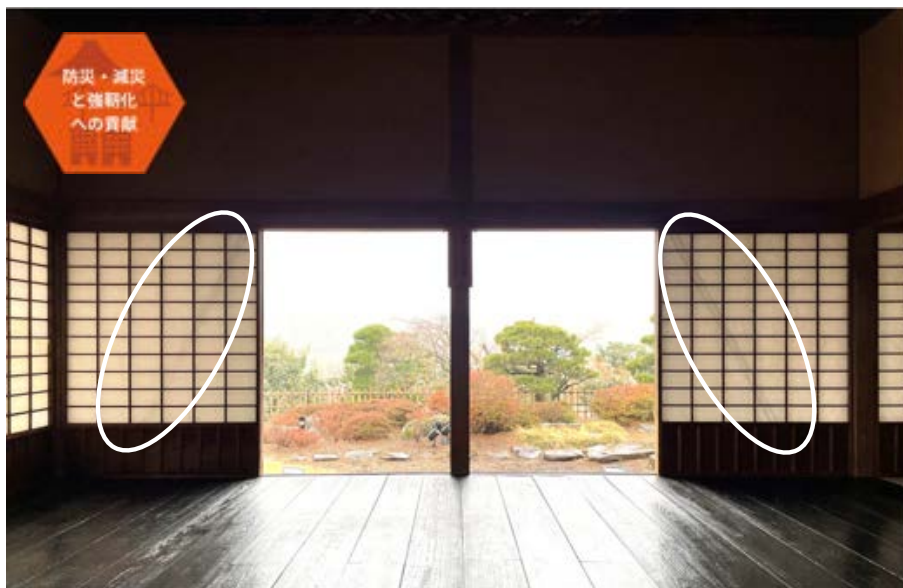
主な用途

鉄骨造の工場や倉庫、体育館などの屋根や壁の耐震補強

主な使用実績

- 西日本旅客鉄道株式会社 某施設
- 日本製鉄株式会社 九州製鉄所
- 株式会社神戸製鋼所 茨木工場 等

開放的な歴史的木造建物への耐震補強 $\phi 7$ ステルスブレース[®]



- 伝統木造重要文化財でも使用可能な高強度でコンパクトな耐震補強材

製品特性

- 斜張橋用ケーブルの素線(7mm亜鉛めっき鋼線)を使用した耐震補強材
- 木造文化財の課題である耐震性と意匠性の両立が可能な社会的価値の高い製品
- Archi-Neering Design AWARD 2022 (第3回AND賞)にて「優秀賞」を受賞
- 軽量で簡易に施工できるため安全性が高く、狭小箇所でもコンパクトに設置が可能

主な用途

木造文化財の耐震補強

主な使用実績

偕楽園好文亭(奥御殿、楽寿楼)

専門家によるケーブル点検・調査・補修工事 橋梁メンテナンス



- 橋梁の適切な維持管理とインフラ老朽化防止で防災・減災と強靱化分野とグリーン社会へ貢献
- ケーブルメーカーとしての豊富な知識と経験を活かして多様なメンテナンスメニューを展開

製品特性

多様なメンテナンスメニューを提供

- ドローンを活用した点検
- 非破壊検査である渦流探傷調査
- 鋼線の腐食減肉を推定するレプリカ法
- キャリブレーション不要で張力測定可能な高次振動法
- 腐食の進行を遅らせるアンチメック工法 等

主な用途

斜張橋、吊橋などのケーブル、定着部 等

主な使用実績

尾道大橋(広島県)、末広大橋(徳島県) 等

収益改善や新製品・新サービス等の開発に加えて、人的資本の拡充・高度化やDX推進にも経営資源を積極投入する。

設備投資

投資額(3年)約70億円

収益改善・設備増強・更新

約30億円

- ・PC鋼材製造設備の省人化
- ・OT線品質改善のための設備改造
- ・ロープ製造設備の更新
- ・大型橋梁案件対応の設備増強
- ・新事業用設備の増強 等

職場環境改善

約20億円

- ・安全な職場環境の整備
- ・働きやすい職場環境への改善 等

DX推進

約5億円

- ・操業データの収集・見える化
- ・データ蓄積・分析基盤の構築
- ・ICタグによる業務改善システム導入
- ・基幹システムの改善 等

研究/事業開発

新製品

- ・カーボンニュートラル貢献製品の開発
- ・防災・減災と強靱化関連製品の開発
- ・新エネルギー分野製品の開発
- ・新事業進出に向けた技術・設備導入 等

新サービス等

- ・メンテナンス事業拡大のための技術者採用
- ・IT技術を用いた橋梁メンテ診断サービス
- ・AIによる生産計画自動化手法の開発 等

人材投資

- ・採用強化・離職抑制等、人材確保の強化
- ・研修等、人材育成の強化
- ・DE & Iの推進・人事制度・就労環境の整備 等

※その他、安定操業、経常的工事等で約15億円計上

※人的資本の取り組みについて：<https://www.shinko-wire.co.jp/pdf/20240509sustainability.pdf>

ROIC 5%以上の実現に向けて、
各事業セグメントでの収益拡大に加えて、投下資本効率化にも注力。

ROIC 5%以上達成に向けた投下資本効率化の取り組み

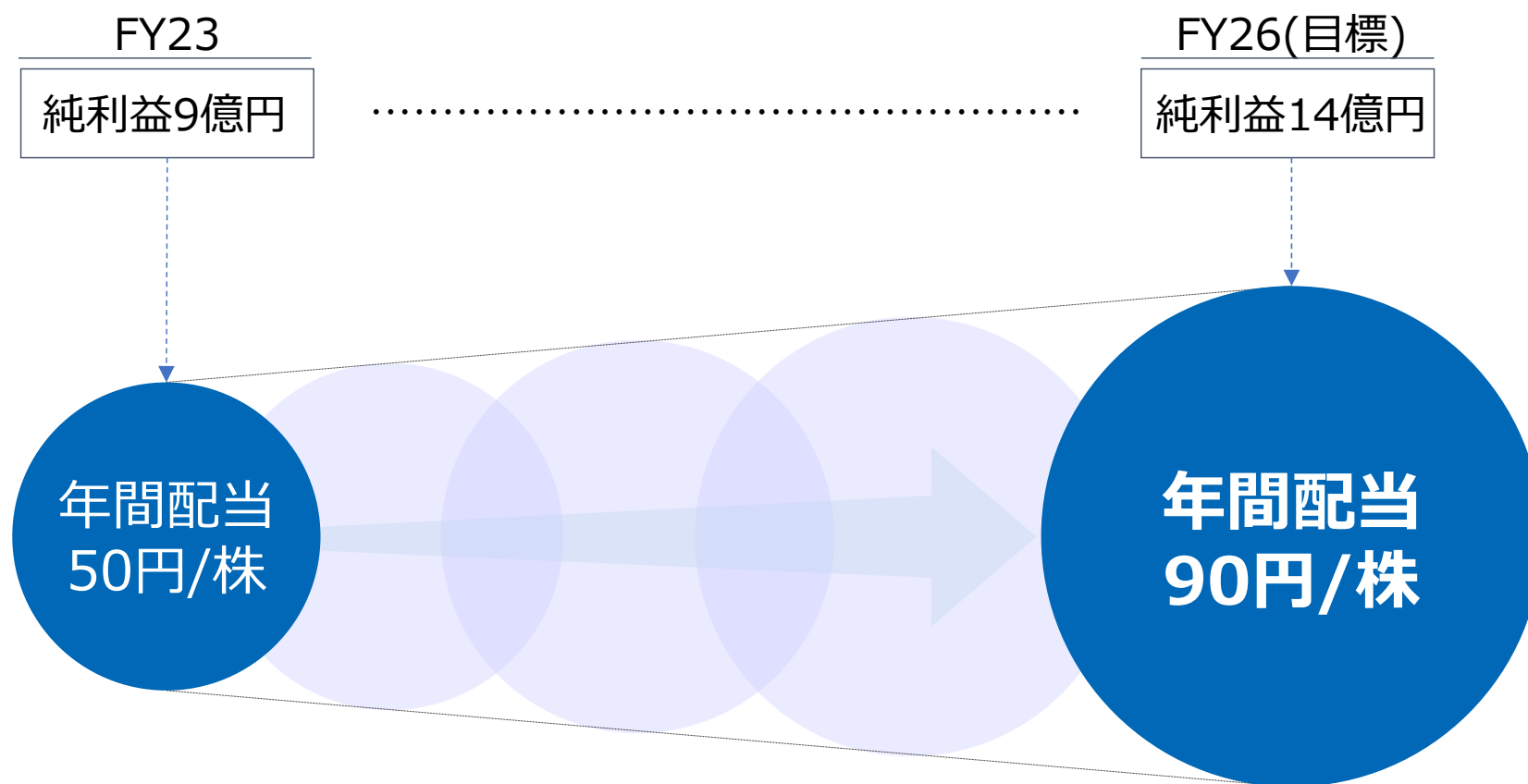
CCC改善

- 1 適正在庫の見直しによる棚卸資産圧縮
- 2 売上債権回収サイトの短縮
- 3 債権流動化

固定資産 回転率改善

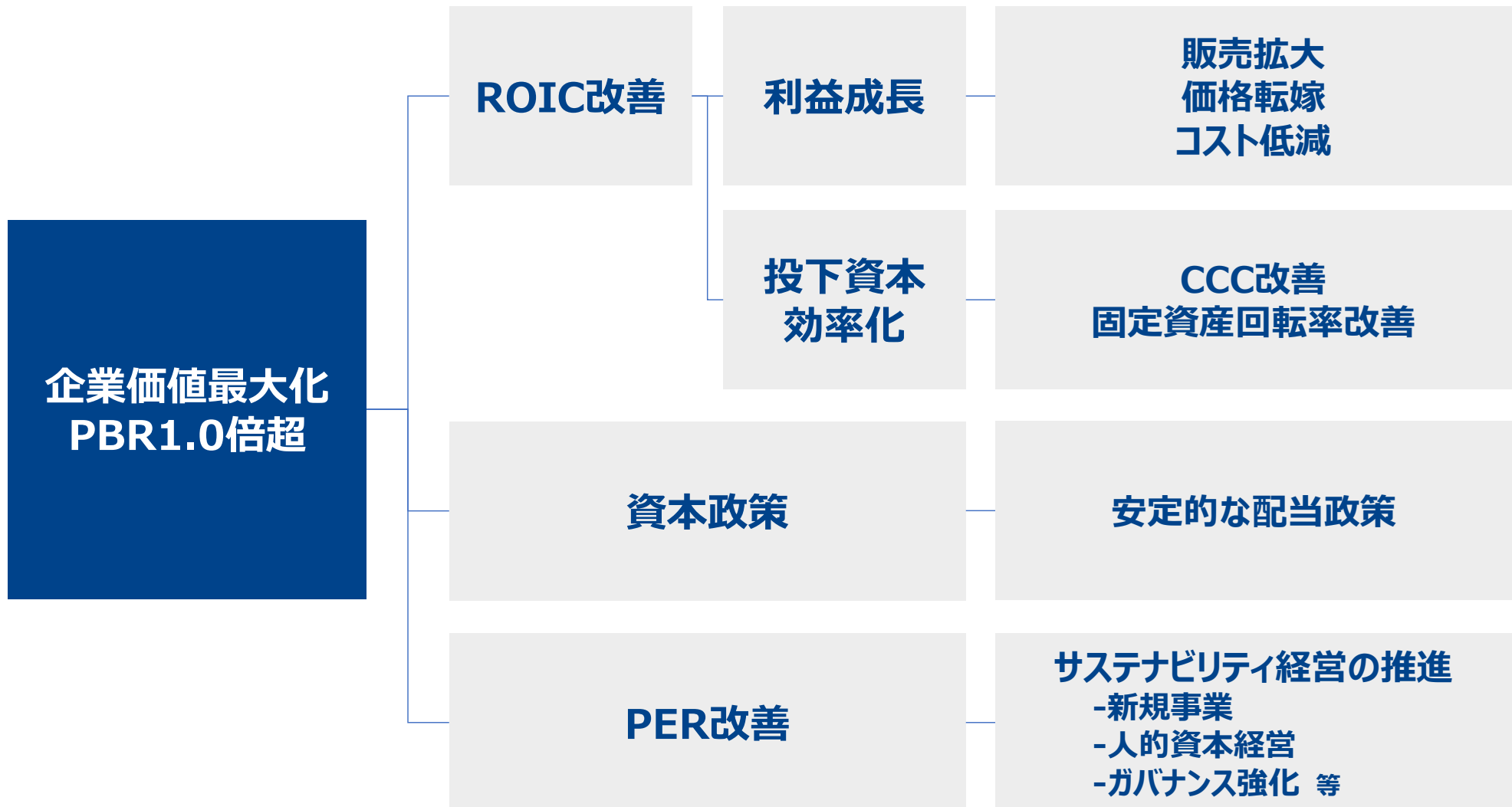
- 1 政策保有株式の見直し
- 2 保有不動産・遊休設備等の見直し

安定した収益基盤の確保に努めると共に、一層の経営基盤の強化や将来の事業展開を勘案し、内部留保の充実を図りながら、**連結配当性向30~40%(年間)程度の継続的な利益還元を目指す。**



10.PBR向上に向けた取り組み

PBR1.0倍超の実現に向けて、企業価値最大化を図る。



- ◆ 本資料の中には、弊社の予想、確信、期待、意向および戦略など、将来の予測に関する内容が含まれています。これらは、弊社が現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいており、判断や仮定に内在する不確実性および今後の事業運営や内外の状況変化による変動可能性など様々な要因によって、実際に生じる結果が予測内容とは実質的に異なってしまう可能性があります。弊社は、将来予測に関するいかなる内容についても、改訂する義務を負うものではありません。

- ◆ 上記の不確実性および変動の要因としては、以下に挙げる内容を含んでいます。また、要因はこれらに限定されるわけではありません。
 - 主要市場における経済情勢および需要・市況の変動
 - 主要市場における政治情勢や貿易規制等各種規制
 - 為替相場の変動
 - 原材料のアベイラビリティや市況
 - 競争企業の製品・サービス、価格政策、アライアンス、M&Aなどの事業展開
 - 弊社の提携関係に関する提携パートナーの戦略変化



Index



- 事業概要
- 経営理念・サステナビリティ経営
- 新中期経営計画「Next Innovation 2026」
- **2025年3月期第2四半期決算**

売上高

各分野での**拡販活動**と**販売価格改定の注力効果**により、全てのセグメントで**売上高は前年比で増収**の見通し。

営業利益

高付加価値製品の販売拡大や、**コスト削減を徹底**し利益率の改善に努めるが、**原材料・人件費をはじめとした諸コストの上昇**に対する価格改定には時間を要し、**今期中に転嫁しきれないこと**に加えて、**上期に発生した在庫評価益は下期以降同水準で発生しないと見込むこと**から、**営業利益は前年比で減益**の見通し。

上期

売上高 **16,942** 百万円

前年同期比 +1,050百万円

営業利益 **642** 百万円

前年同期比 +114百万円

通期予想

売上高 **34,800** 百万円

前年比 +2,073百万円

営業利益 **950** 百万円

前年比 △73百万円

2.2025年3月期業績予想

単位：百万円

	FY'23		FY'24		前年同期比		当初開示 通期予想	当初開示比 通期
	第2四半期	通期	第2四半期	通期予想	第2四半期	通期		
売上高	15,892	32,726	16,942	34,800	+ 1,050	+ 2,073	35,800	△ 1,000
特殊鋼線	8,421	17,488	9,122	18,620	+ 700	+ 1,131	19,990	△ 1,370
鋼索	6,434	13,032	6,814	13,810	+ 379	+ 777	13,380	+ 430
エンジニアリング	1,005	2,144	975	2,310	△ 29	+ 165	2,370	△ 60
その他	30	61	30	60	—	△ 1	60	+ 0
営業利益	528	1,023	642	950	+ 114	△ 73	500	+ 450
特殊鋼線	133	318	305	320	+ 171	+ 1	330	△ 10
鋼索	323	515	290	530	△ 33	+ 14	100	+ 430
エンジニアリング	46	140	21	50	△ 24	△ 90	20	+ 30
その他	24	48	25	50	+ 0	+ 1	50	+ 0
経常利益	572	1,066	686	950	+ 114	△ 116	500	+ 450
親会社株主に帰属する 四半期(当期純利益)	451	906	512	670	+ 61	△ 236	350	+ 320

3.2025年3月期第2四半期業績

37

単位：百万円

		FY'23 第2四半期	FY'24 第2四半期	前年同期比
売上高		15,892	16,942	+ 1,050
	特殊鋼線	8,421	9,122	+ 700
	鋼索	6,434	6,814	+ 379
	エンジニアリング	1,005	975	△ 29
	その他	30	30	+ 0
営業利益		528	642	+ 114
	特殊鋼線	133	305	+ 171
	鋼索	323	290	△ 33
	エンジニアリング	46	21	△ 24
	その他	24	25	+ 0
経常利益		572	686	+ 114
親会社株主に帰属する 四半期(当期純利益)		451	512	+ 61

4.差異分析_第2四半期前年同期比

売上高

特殊鋼線関連事業および鋼索関連事業が増収し、前年同期比 + 1,050百万円の16,942百万円となった。

営業利益

鋼索関連事業、エンジニアリング関連事業は微減となるも、特殊鋼線関連事業での増益が大きく寄与し、前年同期比 + 114百万円の642百万円となった。

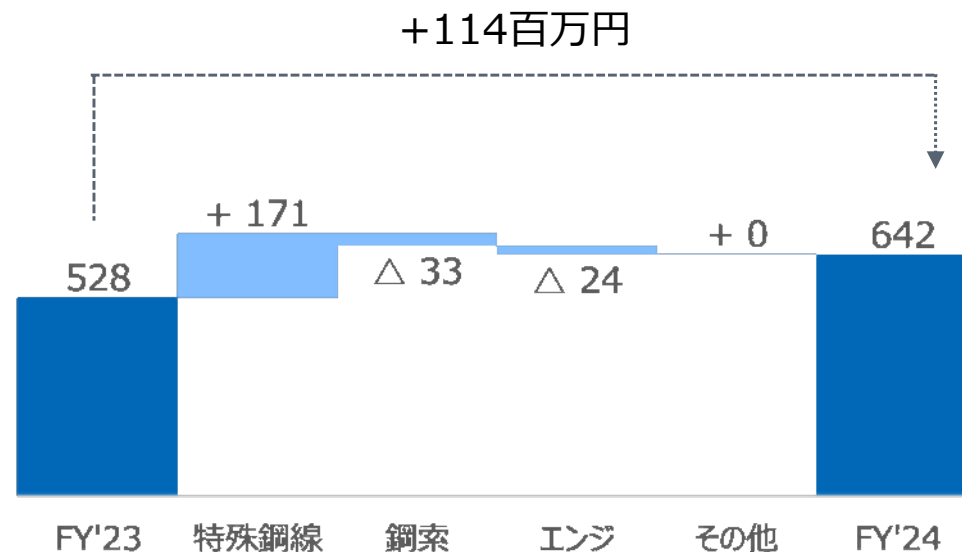
売上高

単位：百万円



営業利益

単位：百万円



5.2025年3月期通期予想

39

単位：百万円

		FY'23 通期	FY'24 通期予想	前年同期比
売上高		32,726	34,800	+ 2,073
	特殊鋼線	17,488	18,620	+ 1,131
	鋼索	13,032	13,810	+ 777
	エンジニアリング	2,144	2,310	+ 165
	その他	61	60	△ 1
営業利益		1,023	950	△ 73
	特殊鋼線	318	320	+ 2
	鋼索	515	530	+ 14
	エンジニアリング	140	50	△ 90
	その他	48	50	+ 1
経常利益		1,066	950	△ 116
親会社株主に帰属する 四半期(当期純利益)		906	670	△ 236

6.差異分析_通期前年比

売上高

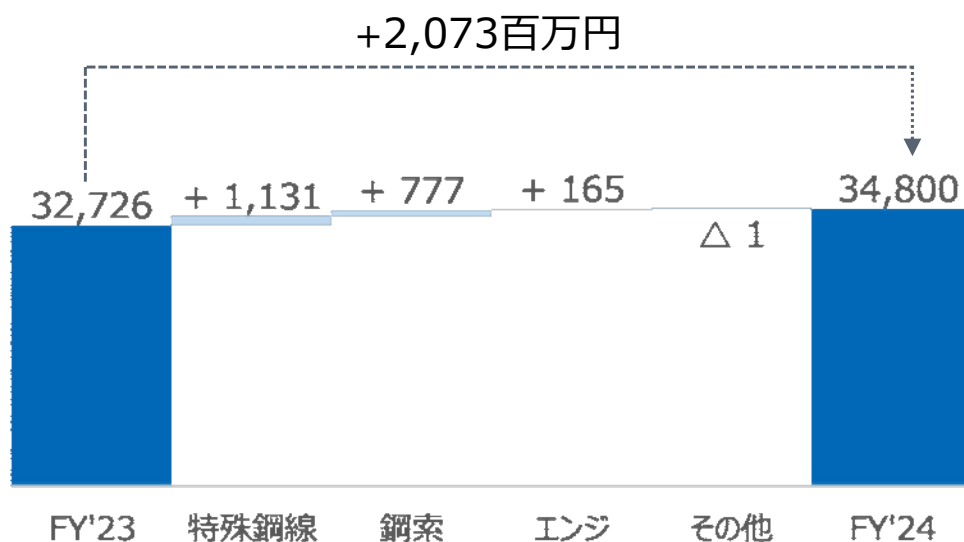
全セグメントにおいて、前年度からの増収を予想し、前年比+2,073百万円の34,800百万円となる見通し。

営業利益

特殊鋼線関連事業、鋼索関連事業は前年度から横這いで推移していくと予想。一方で、エンジニアリング関連事業では減益を予想し、前年比△73百万円の950百万円となる見通し。

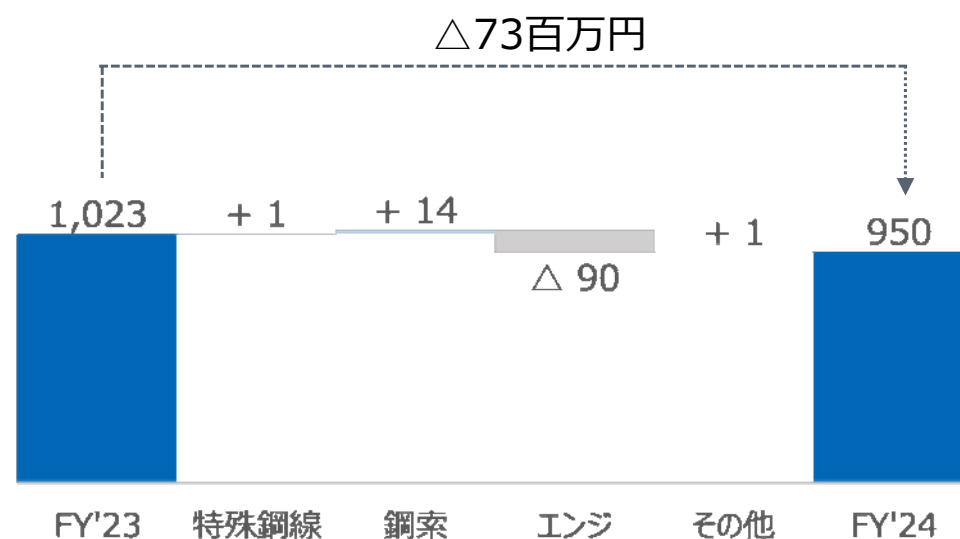
売上高

単位：百万円



営業利益

単位：百万円



売上高

公共分野の市場縮小や、自動車分野の景況悪化のなか、各分野での拡販活動や、前年度低調だったプリンター分野における需要回復影響もあり、販売数量増加の見通し。加えて、販売価格改定による増収を見込む。

営業利益

上期は在庫評価影響により増益となったが、下期以降同水準での評価益は発生せず、また、継続的なコスト上昇に対する価格転嫁に時間を要するため、通期は前年比微増となる見通し。

上期

売上高

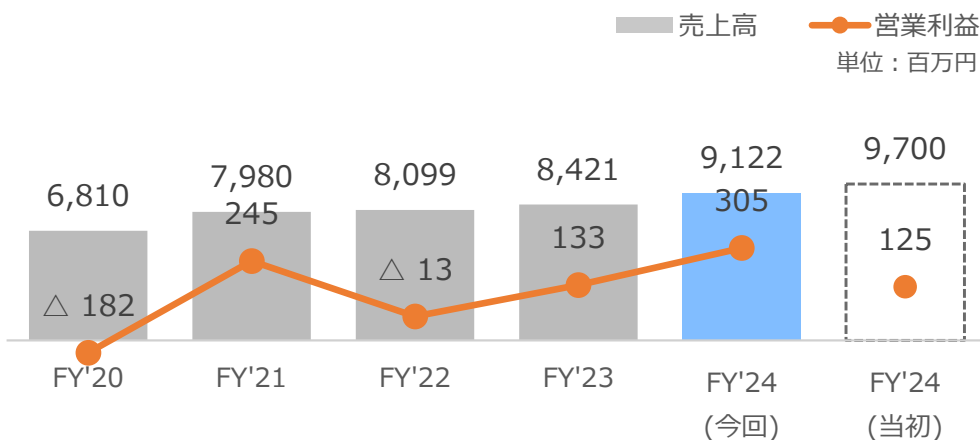
9,122 百万円

前年同期比 **+700**百万円

営業利益

305 百万円

前年比 **+171**百万円



通期予想

売上高

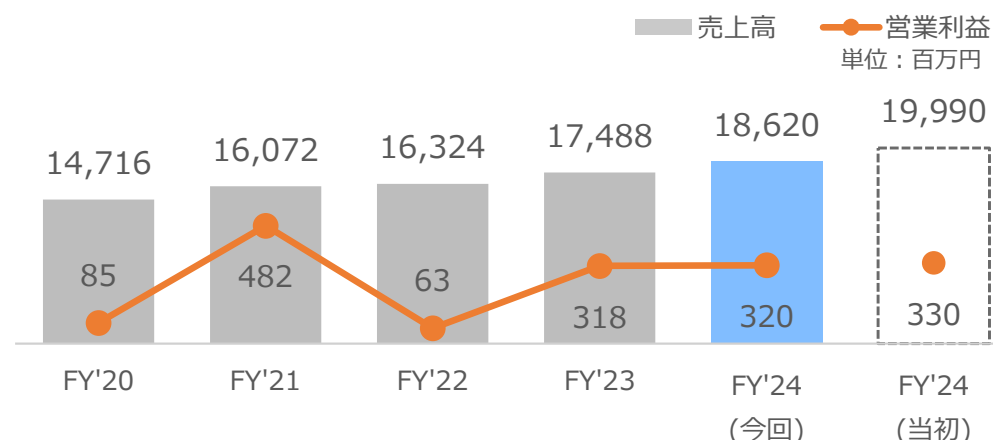
18,620 百万円

前年同期比 **+1,131**百万円

営業利益

320 百万円

前年比 **+1**百万円



売上高

輸出案件の増加により前年比で販売数量が増加することに加え、販売価格改定の推進によって、通期では増収の見通し。

営業利益

増収および、建機向け高収益製品の拡販により販売構成が改善する一方、在庫の削減影響や設備の老朽化対応による固定費悪化影響により通期では前年比横這いの見通し。

上期

売上高

6,814 百万円

前年同期比 **+379百万円**

営業利益

290 百万円

前年比 **△33百万円**

通期予想

売上高

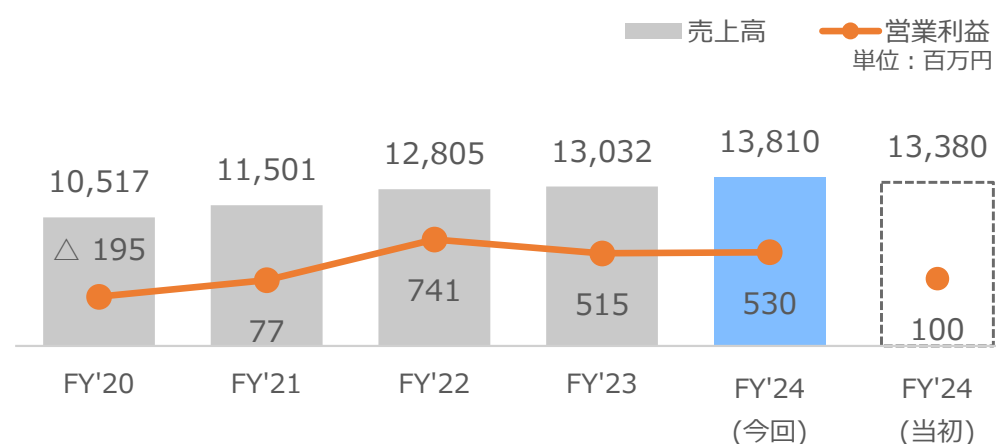
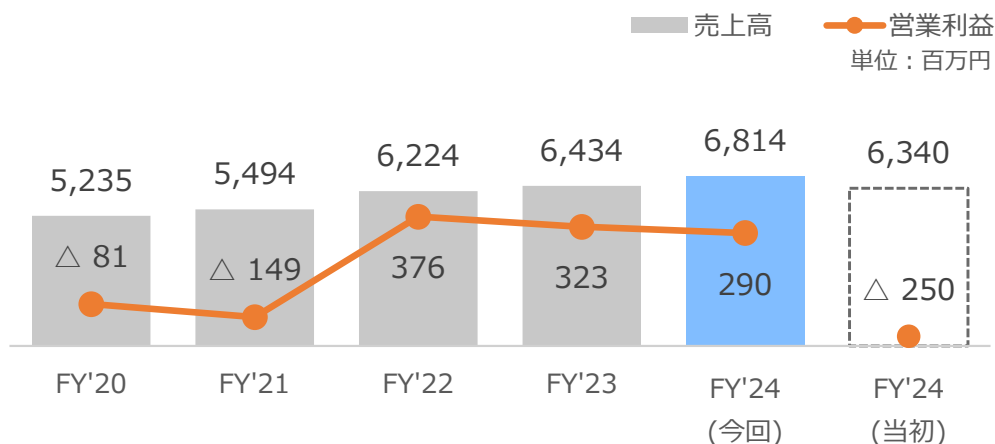
13,810 百万円

前年同期比 **+777百万円**

営業利益

530 百万円

前年比 **+14百万円**



売上高

上期は土木分野の一部大型案件終了影響等により前年比減収となるが、通期は建築分野の万博関連受注や諸コストの上昇に対する価格改定効果等により、前年比増収となる見通し。

営業利益

土木分野の一部大型案件終了影響に加えて、諸コストの上昇に対する価格転嫁に事業構造上タイムラグが生じること、また、来期以降の大型案件対応に向けた固定費の増加等を見込むことから、前年比減益となる見通し。

上期

売上高

975 百万円

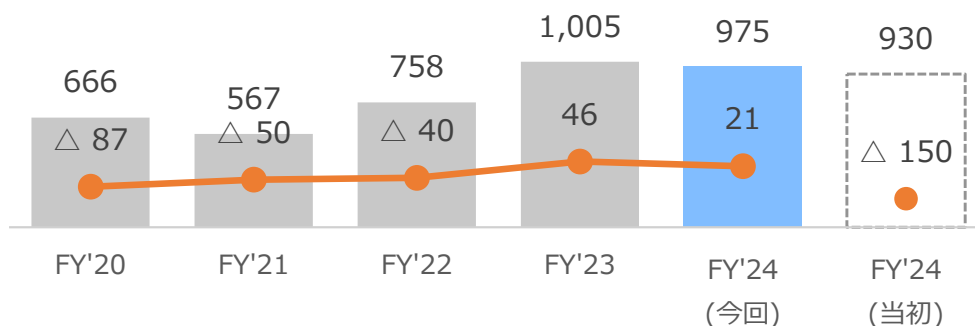
前年同期比 $\Delta 29$ 百万円

営業利益

21 百万円

前年比 $\Delta 24$ 百万円

■ 売上高 ● 営業利益
単位：百万円



通期予想

売上高

2,310 百万円

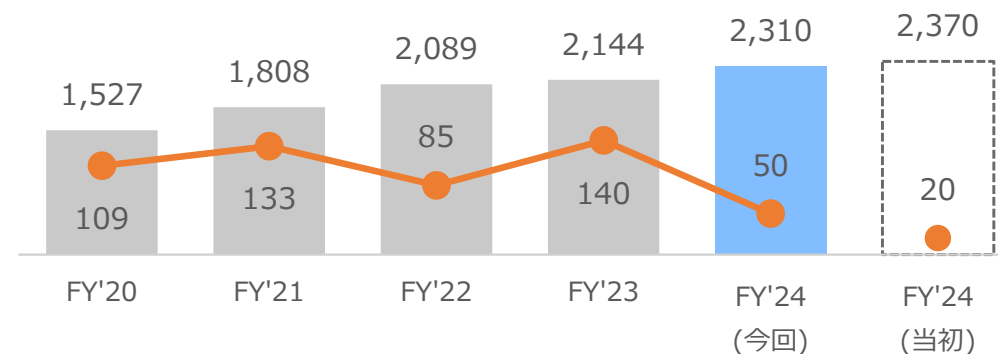
前年同期比 $+165$ 百万円

営業利益

50 百万円

前年比 $\Delta 90$ 百万円

■ 売上高 ● 営業利益
単位：百万円

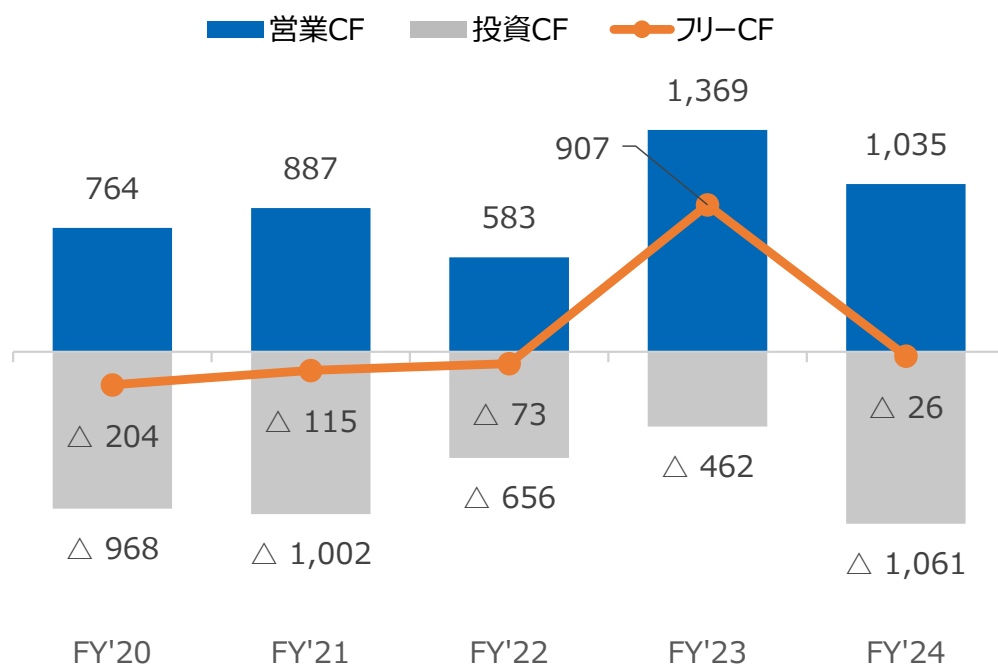


8. キャッシュフロー・D/Eレシオ

売上高拡大による売上債権の増加に加え、生産設備の更新を始めとする設備投資の増加により、フリーキャッシュフローは前年比△933百万円の△26百万円となる。
D/Eレシオは経営目標0.5以下を安定して維持。

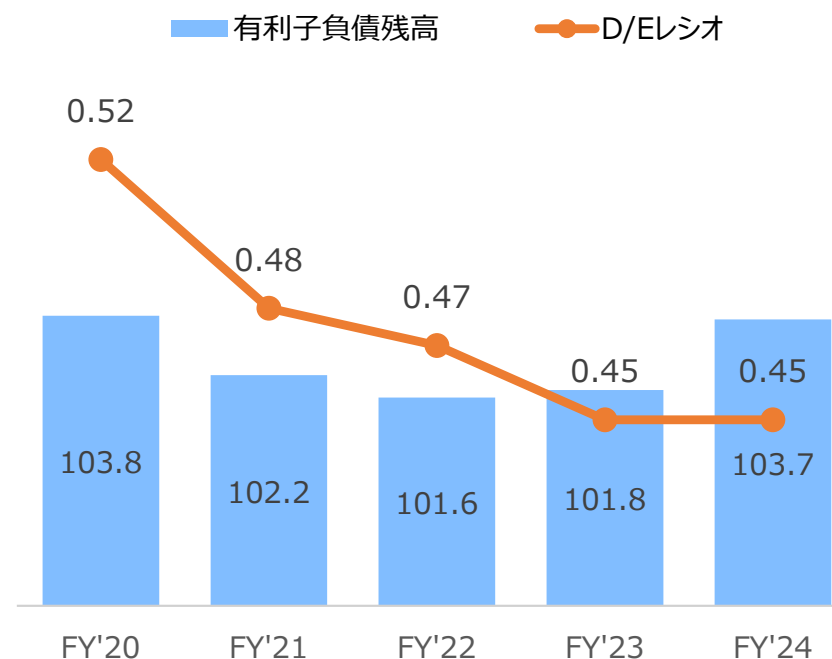
キャッシュフロー

単位：百万円



有利子負債・D/Eレシオ

単位：億円



中期経営目標ROIC5.0%以上の達成に向け、利益改善のみならず、CCC改善・固定資産回転率改善など投下資本の効率化施策を推進する。

	FY'21	FY'22	FY'23	FY'24 当初開示	FY'24 第2四半期開示	FY'26 中計目標
営業利益 (百万円)	748	939	1,023	500	950	—
経常利益 (百万円)	875	1,045	1,066	500	950	2,100
当期純利益 (百万円)	599	833	906	350	670	—
有利子負債 (億円)	102.2	101.6	101.8	101.8	103.7	—
D/Eレシオ	0.48	0.47	0.45	0.45	0.45	0.5以下
ROE	2.8%	3.8%	4.0%	1.5%	2.9%	—
ROIC	1.6%	2.0%	2.1%	1.2%	2.1%	5%以上

配当については、経営基盤の強化や将来の事業展開を勘案し、内部留保の充実を図りながら、連結配当性向30～40%(年間)程度の継続的な利益還元を目指すことを基本方針としております。

本方針に基づき、当期の中間配当は1株当たり30円とすることを11月7日に公表の方針の通り決定いたしました。なお、通期連結業績予想の修正に伴い、期末配当予想は1株当たり10円に修正し、年間配当予想は1株当たり40円といたします。

	FY'23	FY'24			参考 (8月開示)		
		中間	期末		中間	期末	
配当金額 (円/株)	50	30	10	40	10	30	40
配当性向	33%	-	-	35%	-	-	35%

※上記の予想は、11月7日公表時点において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は今後様々な要因によって予想値と異なる場合があります。